

# 聖書之真理

第四十六號

八月號

主筆 江原萬里

信仰と律法との混同

主筆

キリストの十字架と

十字架のキリスト

主筆

クロムウエル傳

清教徒主義の永遠性

クロムウエル及びバンヤンの回心の經驗

主筆 江原萬里

晩近考古學と舊約聖書

ノアの洪水に就て

主筆 小栗襄三

無産者イエス

主筆 藤本武平二

柏木通信

主筆 齋藤宗次郎

同情は理解の本 新著批評(二) 編輯餘録

昭和六年八月一日發行

## 新著批評 (二)

『聖書の現代經濟觀』御惠贈下され有り難く存じます。人並ならぬ御健康と御境涯におかれて而も人一倍のこれだけの御仕事をやつて來られたことに對しても新たな尊敬を、同時にそれをさせた背後の力に對して深き感謝を表はす次第であります。新たな装ひにせられた『富の増進』は特に拜見しなほしました。在りし頃のマーシャルの御研究が隨所に光り、又何よりもカルビン主義の人格と活動の倫理と信仰が輝いて居ます。現在及び將來の純粹の經濟理論としては多くの問題もあり異論も立ちますが、いづれの理論と又組織の下に於てもさうした精神と信仰は眞の力であり生命でありませう。聖書から觀たる現代經濟批判としての貴著はその意味に於て不朽の眞理を闡明し得たものといひ得ませう。

右御禮旁々感想の一端まで。(下略)

江 原 兄

南 原 繁

南原君は東京帝國大學の政治學史の講座を擔當されて居る教授

である。私は常に其の温健中正の判断と凡ての善き事に對する同情の豊富なものに多大の尊敬を有つて居る。

私の經濟學の師は此の手紙にもあるやうに故アルフレッド・マーシャル先生であつた。私は彼の著書全部殊に其の名著經濟學原理は何度繰返して讀んだかわからない。私は此の書によつて嘗て大阪で六ヶ年實業小僧をして實地見習によつて得た知識に系統を與へられたのである。

然し乍らマーシャル先生はヘーゲリアンであつてヘーゲルの哲學は一見 Thesis の如く見えて、實は現今の大多數の理想主義者の世界觀と同様 Pluralism であつて私の信仰との間に一大溝渠があり、私は學問的に長くこのために苦しんだ。此の問題について哲學的に私に一道の光明を與へてくれたのは、ワードの著『目的界』であつた。

然し私をして學問がごうあらうと私の信仰に對して最後の確信を與へてくれたものは、私の學生時代に獲た宗教的經驗とそれに復歸することに由つて新に私のうちに燃え出た新生命の經驗であつた。私は次第に救に關して人間の自由意志を超越する神の絶対的自由を信するやうになり、カルビン主義に對しそして又之を奉ずる清教徒に對して甚だしき接近と同感とを有つに至つた。

さり乍ら私は殘念乍らカルビン程徹底的に神の專斷的自由の承認と人間の自由意志無視、その特色である預定の教義を其の儘鵜呑にするだけの熱烈さはない。私も亦近代思想にかなり多くの感化を受けて居る。

# 聖書之眞理

## 第四十六號

昭和六年八月一日發行

### 信仰と律法との混同

『信仰に由つてのみ神に義とされる』とはプロテスタントの據つて立つ城砦であつて、プロテスタントは之と偕に立ち、之と偕に倒れる。

神に義とせられる途は唯信仰あるのみ、律法的行爲に由らない。されば社會運動と社會制度の改革、教育の普及と文化の發達は勿論、日常生活に於ける各人の道徳律嚴守のための努力精進は皆、善事であるが之に由つて神に義とされる事はない。

然るに最近『信仰のみ』を高唱するプロテスタントの選士中信仰と律法的行爲とを混同する者尠なくないのは甚だ慨嘆に堪えない。其の顯著なる

一つは現今識者中に主張せられる基督教の社會運動への轉向論と神國運動とはそれである。然し乍らかやうに明白な誤謬の外に更に恐るべき病患が内部に存在してプロテスタントの生命を奪はんとするものが他に一つある。

それは信仰とは神を愛し人を愛することである。その説がそれである。そして聖書に照して明白なる此の誤謬を何人も排撃しないところに大ない憂がある。之は斷じて信仰ではない。信仰が成就する律法的行爲である。

パリサイ人……の中なる一人の教師イエスを試むる爲に問ふ、『師よ律法のうち孰の誠命が大なる』イエス言ひ給ふ『なんぢ心を盡くし精神を盡くし思を盡くして主なる汝の神を愛すべし』：『おのれの如くなんぢの隣を愛すべし』云々（マタイ傳二二）。

之は『律法の全體』である。それ故信仰ではない。

## キリストの十字架

## 十字架のキリスト

信仰とは只單に神を信することではない。其の心に神を思ひ浮べたり、正義は世を支配すとか愛は最後の勝利者であると確信する事でもない。

神に義とせられる信仰とは『キリスト・イエスを信する』信仰である。死より甦り今活けるキリスト、聖靈をもて信する者の靈に宿り教え導き慰め勵まし給ふ彼其の者を絶対に信賴する事である。

それ故信仰とは過去の人物を信することでない。又過去の歴史的事實を眞なりとする確信と異なる。イエスの處女降誕、その傳道と教訓、その十字架の死と復活等の史的事實を眞實なりと信じたりとてそれで神に義とされない。使徒信經の誦稱は最も善き正統主義者を作るかも知れないがそれで神に義とされない。

凡ての人間の努力が信仰でないやうに凡ての人間の確信も亦信仰ではない。我等は之に由つて救はれない。唯昨日も今日も永遠にまで活き給ふ我等の義の完成者、従つて愛の極なるキリストが我等を救ひ給ふのである。そして我等は唯彼の救に安じて只管彼に信賴すること、この信賴が信仰である。そしてキリストを信する此の信仰に由つてのみ神に義とされるのである。

されば詭辯の如く聞えるも、眞理は、我等キリストの十字架を信じて義とされるのでなく、我等の罪を十字架の苦難の死に由つて悉く贖罪あがなうて甦り給うたキリスト彼自身を信じて義とされるのである。彼の人格の最も深いところはその十字架の苦難の死に於て顯はれた。かゝる苦難を我らを救はんが爲に忍び給へる彼が今榮光のうちに在るその美はしき生命を我らに賜はない事があるうか、彼の智慧その愛その能力これ悉く我がものである。

## ク ロ ム ウ エ ル 傳

江 原 萬 里

## 清教徒主義の永遠性

## 清教徒としてのクロムウエル

クロムウエルは郷里に在つて農業にいそしみつ、知らず知らず後年英國を救ふ準備をして居たことは前に述べました。彼は家門に名譽ある宗教改革家を出し、父に眞實なる清教徒を有し、彼自ら村塾に又大學に清教徒主義の教育を受け、深くその信仰に訓練されました。そして農事にいそしむ側ら同郷の人々殊にその弱き者を援けて彼らのために盡しましたため、その地方民の信頼を受け、彼等の頭目として仰がれるやうになり、後年彼の傘下に馳せ集つた此の地方の義勇兵を以て王軍に

當り、遂に清教徒革命を成就しました。

前に申しましたやうに、此の事は一度も彼は之を計畫的に企てたのでなく、只隣人に對して『一個の正道なる人としての義務を果さんと勤めた』だけでありましたが、知らず知らずの間にその準備をせしめられたのであります。それは神の攝理が彼をして英國民の苦痛を救はしめ、其の地に神の眞福音を固く植付けやうとして彼を導きつゝあつたのであります。

かやうに彼は一個の正直な人として家事又近隣のため忠實に最も手先に在る其の義務を果しつゝ、その半生を送つたものであります。そして地方の人々は彼を地方の有力政治家、郷黨の首領として仰ぎました。然るに彼は政治については其の始め殆ど興味なく、嘗て議會で自分の閱歴を語り『自分是一個の正直な人として神と其の民の利益のため、又英國のため義務を果そうとした』と申し

ましたやうに、彼にとつては英國と英國民とのためよりも神と其の民とのための方が遙に重要であり、それに對する義務を果すことが何よりも先に彼の關心事でありました。

それ故地方の人々は彼を地方政治家として仰ぎましたが、彼を最もよく知る彼の親近者たちは皆彼を一人の熱心な清教徒として見ました。その頃彼の住地とさまで遠からぬリンコーン市に住つて居て、其の教區の監督を勤めて居ましたクロムウエルの親戚に當るウキリアムと云ふ者が當時のクロムウエルの事を回顧して申しました。『クロムウエルは教派（清教徒を指す）の代辯人で、非常に頑固に彼等の味方をして居た』と。

當時カンターベリーの大監督ラウドは教會内で清教徒主義殊にそのカルビンの唱道した預定の教義の説教をすることを嚴禁しましたため、清教徒たちは別に集會を催し、善き説教者を聘して其の

講演を聴くことにしました。それがため各地に之を維持する財團が出来て、その講演の維持費の醸出調達に當りましたところ、ラウドは之をも解散させました。其の頃クロムウエルの郷里でも此の講演が催され、彼は其の費用を寄附し熱心に之を維持しました。彼の數多き書翰中最も古いのはロンドンの一商人に宛て、この費用支辨のため釀金續行を勧誘した手紙であります。之を讀むと、  
彼がどの位熱心に『神とその民の利益とのため』己が義務とするところのこゝを果しつゝあつたかがよくわかります。今その抄譯を掲ぐれば、

ストリ殿　聖アイアス、千六百三十五年（即ち新式六年に當る）一月十一日

貴殿たち市民諸君及びわが農民が成しました幾多の善事のうち、彼らが靈魂の糧を供したことは、いと小さきものとして數へらるべきではありません。病院の建設は人々の肉體のために供

せられ、寺院の建立は信心のわざとせられます。さり乍ら靈の糧を供し、靈的寺院を建立する者は眞に慈悲あり、眞に敬虔な人であります。貴殿たちが私共の地方に講座を設けられたことはかやうな事業でありました。(中略)

たゞ申上げ度き儀は、最初貴殿たちを動かして此の舉に出でしめ給ふた神はその繼續に向はしめ給ふと云ふことであります。之をなし給ふた方は神であります。されば我らの心は之を完成し給ふ彼を仰ぎます。ストリ殿、此の講座の創立者に有能且つ敬虔の方々と思はれる人々がかやうに多數あるに拘はらず、今神ごその眞理ごの敵に由り、餘りにも急激な抑壓を蒙つて居る此際、講座が衰頽するのを見ることは情無いことと云はれましやう。……………貴殿らも知らる如く、支拂の停止は講座を衰頽さす事でありませう。誰が費用自辨で戦争に出る者がありませう。

う。されば私はイエス・キリストの御胸に頼つて御願致します、どうぞ事業を進行させ、善人に報酬を得させて下さい。神の子たちの靈魂は貴殿を祝福するでしょう。私も亦致します。

### 新英州移住の企

福音が宣傳へられて人々の靈魂が救はれることを希ふ彼の熱心は此の書翰に溢れて居ます。彼は傳道に従事して居る者は雲か霞を食つて生きて居る仙人かなごのやうに思うて其のために心を勞することなく、自分はせつせと金を蓄めて居る多くの基督者と異なり、『費用自辨で戦争に出る』ことの出来ないことを善く知つて居たことがわかりませう。それと同時に彼は自分の信仰を押賣する者を甚しくきらひました。それ故當時教會が純福音を説くのを妨げ、一定の儀式、一定の教義を人々に強制しやうとするのを甚しく憤慨したのでありませう。

す。こんな英國は彼には到底我慢出来ませんでした。それ故彼は神を良心を以て拜せんとすることを願ひ信仰の自由を求めて、英國を去り北米新英州に移住しやうとしましたが遂に之を果しませんでした。それは多分千六百三十一年から三十六年迄の間であつたと思はれます。三十一年には短日月のうちに家財全部を賣却し、郷里ハンチングトンを引拂ひ、聖アイブスに移轉した年であり、且つ其の年及び其の前年はクロムウエルの住地なる英國東部の清教徒中新英州移住者が最も多かつた年であります。又其の翌年はクロムウエルの従兄のジョン・ハムブデン等が申合せて植民會社を設立し、北米コネクチカットに開墾の權利を得た年であり、此の頃クロムウエルが北米に移住を企てたと云ふ傳説は眞實と思はれます。

然るに彼は此の計畫を放棄しました。何故移住を中止したかと申しますと、傳説によれば千六百

三十八年彼は一家を引纏め渡航のため既に北米行の船に乗つたところを、官憲の命令で其の船が出帆を禁せられたためだと云はれて居ますが、記録によればその發航禁止は直ちに解かれ、船は無事出帆しましたから、それがために彼が移住を中止したと思はれません。

又三十六年に母方の伯父が彼に相當の財産を遺して死去し、彼はイリーに轉居して之を監理する必要が生じたためだと云はれて居ますが、只それだけでなく彼は財産處理以上のもつと高貴な動機で英國に踏み止まつたものと思はれます。彼に眞に國を愛する心がなかつたならば、自國の壓制を見てそれよりも遙かに安住の地に移住したであらう。

兎に角彼は英國を去りませんでした。英國は彼を必要としました。若し彼が此の時英國を去つたならば、多分英國史はその精神的に最も光輝ある



數頁を失ひ、クロムウェル自身は波瀾多き、偉大なる悲劇の主役者となることなく、新英州の新天地に善良なる農民として、土地を開墾し、牧畜をなし、聖書を讀み、永遠を思ひ、神に仕へ、隣人を愛し、善き家庭の父として平和なる一生を終つたてでありましょう。然し乍ら見えざる神の攝理の御手が彼に之を許し給ひませんでした。否、彼は英國を救ふ大任が彼を待つて居ました。そして彼自身は少しも之を豫期せずして然かも之がため準備をなさしめられつゝありました。

それは此の頃彼自身眞實に神の救を身に經驗するに至つたこと之であります。若し彼自ら彼の傳記を書き記しましたならば、恐らくは此の頃の經驗を以て彼の一生涯の最大事件とし、其の後に起つたネースビーやダンバーの戦勝も、王の處刑狀の署名も、長期議會の解散乃至無冠の帝王として大英國の權力を一身に掌握したことも、之に比べ

ればそれは彼の生涯のいご小さきエピソードとして記したてでありませう。此等の波瀾極まりなく、人々をして感嘆せしめ、尊敬せしむる様々の事件は畢竟彼が此の時經驗した精神的大變化、神の救の確信より自ら流れ出た自然の結果に過ぎませんでした。此の時獲た宗教的經驗よりして彼は先づ『神こそその民の利害のため、その義務を果さんと勤め』次で『又英國のために』それを勤むるに至つたのであります。

### 清教徒の史的意義

まことに英國に清教徒の出現しました意義は、彼等が奮起して國王の専制政治下に呻吟して居た民の塗炭の苦を除くために共和政治を創めたことではありません。又英國の監督制度の國教會が國民の信仰の形式的統一を計り、一定の儀式と教義とを遵奉することを國民に強制したことに反対し

て、之に代ふるにカルビン主義の長老教會制度に  
典據して別の教會制度を採用したところでもありま  
せん。此等は其の時々の一時限りの事象でありま  
して、それに何等の永遠性はありません。

然し乍ら清教徒の出現には萬世に亘つて輝く、  
人間性の光輝ある祈求、カーライルの申しました  
ヒーロイクなるものが其の内に存在しました。人  
類の始祖アダム以來腐敗し、弱められて居る我ら  
の肉の中にあつて、眞實に聖なるものを慕ひ懼れ、  
己は廣大無邊、測り知られざる神の智慧と能力と  
に絶対に服従し、その命じ給ふまゝに従ひ、『我が  
意の儘さにはあらず、御意のまゝになし給へ』こ  
の絶対の献身を以て、神の榮光の具に使用せらる  
ことを名譽とし、人間の罪のために穢れたる社會  
の上に神の國と神の義との現はるゝことを待ち望  
んだことに在りました。

彼らが英國を支配した期間は短かくありま

した。然し乍ら人類の歴史の其の一瞬間に永遠の  
太陽が雲間を破つて地上に輝き出たのでありま  
す。その時人間性のうち最も尊き、最もノーブル  
なものが光り輝いたのでありました。世の人は己  
が肉慾と物慾との満足、快樂と安易との追求に日  
も足らず、神の正義を怖れず、その審判の如何に  
嚴肅峻烈なるかを思はず、世を擧げて神より離れ、  
之に背き、罪惡にひたり、その報を受けつゝある  
時、失はれたる人の心のうちにも、それは只一瞬  
間に過ぎなくとも、其の内に閃く永遠の御國の光、  
そこに民たるの喜——これは墮落したとは云へ人間  
の本性中には尙殘存するものであります——之れが  
人類の歴史に於ては此の清教徒革命の時に我らの  
眼前に顯はれ、社會を支配し、我らをしてその前  
に沈思默考、憧憬追慕を禁じ得ざらしめました。  
こゝに清教徒革命の永遠性があります。

## 神　の　預　定

清教徒の心を動かし、かやうな運動を生せしめた彼らの精神は神學ではありませんでした。人は教義では救はれません。教義が世を動かすのでなく、人のうちに働く精神が世を改造するのであります。宗教改革は『信仰に由つてのみ義とせられる』と云ふ教義が中世を覆へし、近世を創めたものではありません。それはルーテル又カルヴインの

精神が革命を起したのであります。そしてカルヴインの精神が英國清教徒の心を改造したのであります。若しカルヴインをその『ゼネバのガウン』（學者の上衣）によつて知ろうとするならば、それは彼を十分に解した者ではありません。彼の人物、その精神は遙かに神學より大であります。

カルヴインは實に途徹もない大なる理想を有し、人間性を改造し、その中に新なる生命の創造を企

てた者であります。それ故彼の所説は人間の一番深いところに達しました。それを以て彼は人間の社會を改造しやうとしたのであります。『信仰に由りて義とせられる』と云ふ教義はその要約に過ぎません。カルヴインの最も大なる功績は此の新教主義の教義に牢固たる基礎を與へた者でありました。それが有名な預定の教義であります。

全知全能全在の神は永遠に亘り、我らの到底測り得ない智慧と能力とを以て此の世界を創造し、統治し給ひ、己以外の何者にも制限せられることなく絶對に自由にその御意を行ひ給ふ者であります。人は彼の前には一個の虫けらに過ぎません。而して神は此の宇宙を創造し給ふ前に其の中に己が榮光を顯はすため、此の後生れ出る人類中の或者を預じめ選び別ち、之を『光榮のための憐憫の器』としその仁慈を示し、他の者を『滅亡に備はれる怒の器』とし、その正義の峻烈を示し給ふこ

云ふのが『預定の教義』の要點であります。

あゝ人よ、なんぢ誰なれば神に言ひ逆ふか、造られしもの、造りたる者に對ひて『なんぢ何ぞ我を斯く造りし』と言ふべきか。陶工すゑものつくりは同じ

土塊をもて此を貴きに用ふる器とし、彼を賤しきに用ふる權なからんや、もし神、怒をあらはして權力を示さんと思しつゝも、なほ大なる寛容をもて、滅亡に備れる怒の器を忍びまた光榮のため預じめ備へ給ひし憐憫の器に對ひて、その榮光の富を示さんご爲給ひしならば如何に。

この憐憫の器は我等にして、ユダヤ人の中より而已のみならず、異邦人の中よりも召し給ひしものなり（ロマ書九・二〇—二四）。

聖書中此のパウロの書翰がその根據となり、アウグスチーヌを通じカルヴインが最も強烈に之を主張しましたこの預定の教義は新教主義、即ち『人は信仰に由りてのみ救はる』と云ふ教義を支

持する最も強固な城塞であります。之は人が神に

義人ごせられるのは己の功績に由らない、唯測り知る事の出来ない神の絶對に自由なる御意みこころなる憐

憫に由る、我ら神に義ごせられるため主イエス・キリストの贖罪を信する様になつたその信仰すら世の創めから預じめ知り給へる神の召しに過ぎないと云ふのであります。この位救に關して自力を奪ひ去り絶對他力の信仰を起さすものはありません。

神は預じめ知り給ふ者を御子の像かたちに象かたどらせんご預じめ定め給へり。……又その預じめ定めたる者を召し、召したる者を義とし、義ごしたる者には光榮を得させ給ふ（同八・二九、三〇）。

### 神の攝理

神が絶對の自由を以て之をなし給ふのであります。そして一段光榮の器として預定された者には神の攝理の御手は彼らを離れることなく、『神を愛

する者、すなはち御旨によりて召されたる者の爲には、凡てのこと相働きて益となるを我らは知る』(同八・二八)との確信が彼らに生ずるのであります。神は正義を以て全世界を支配し給ひつゝありたまひます、されば世の如何なる出来事も、そのうちに神の御意を伺ひ知り得られるとは彼らの固き信念でありました。ハーグ市に新に建てられたフランス人の教會のオルガンが焼けた時は、それは法王主義と監督主義の滅亡の前兆とせられ、タバトトン市で市を開いて主の聖日を潰した罰は靦面、其の市は焼け失せました。鯡の大群が沖に襲來したのを見て舟を乗り出し大漁をしましたが、其の日は安息日に當つたので以後すつかりある漁村は淋びれました。史家ランケが申しましたやうに、彼らにとつては『神の秘められた事柄は、かくも直接に複雑なる人事に關連した』のであります。彼らの神はかくの如き神でありました。神は世

の創めより預じめ光榮の器と怒の器とを分ち、光榮の器に對しては『凡てのこと働きて益をなさしめ給ふ』神でありますが、惡しき者に對しては『大なる寛容をもて』之を忍び給ふとも、その道は滅亡の外ありません。此の預定及び攝理の教義は全く自由意志を否定した必然論、運命論であります。が、奇體なここには此の運命論はかの諦らめ主義の運命論と全く異なり、人々を感奮、興起せしめ、己が内に潜む全精力を傾注して正義のため、神のために働かしめる道德的奇蹟を行ふものであつて、此の教義を所謂『殉教者製造機』でありました。それは何故でありますか。一度世の創めより光榮の器として預じめ神に知られ、召され、義とせられたこの確信がうちに生じ、『神に召されたる者のためには、凡てのこと相働きて益となるを』確信した以上、最早世のあらゆる困難に對して氣おくれが致しません。必らず神の憐憫あり、

攝理の御手の援助あるを期して勇敢に神の御意を成就せんために戦ふに至るからであります。スコットランドの農民にデビト・ホープと云ふ者がありました。ある日その一家が畑で麥苜をし、食事時間となつたため、一同食卓につき、デビトは聖書を取り上げて之を読み、やをら食前の感謝をしやうとした時、彼の僕が慌て、馳けつけ、「大變です。大風が吹いて來ました。打つちやつて置けば、今苜つた麥たばは皆海に吹き飛ばされて仕舞ひます」と注進しました。「何、風？ わしのものときめられた麥をどうして風が持つてゆくものか。さあ坐れ、一緒に神を拜しやう」。これがデビトの答でありました。

神に義とされた以上大丈夫、如何なる困難、如何なる暗黒も『われ確く信ず、死も生命も、御使も、權威ある者も、今ある者も後あらん者も、力ある者も、高きも深きも、其の他の造られたるも

のも、我らの主キリスト・イエスにある神の愛よ、我らを離れしむるを得ざるを』(同八・三以下)であります。されば嘗て『ギデオンバラク、……ダビデ、サムエル及び預言者たち』を用ゐ給ひし如く、神はその御國の榮光のため、われらを用ゐて『國を服へ、義をおこなひ、約束のものを得、獅子の口をふさぎ、火の勢力を消し、劍の刃をのがれ、弱きより強くせられ、戦争に勇ましくなり、異邦人を退かせ』給ふことを確信し、欣然として『ある人は更に勝りたる復活を得んために免さるゝことを願はずして極刑に甘んじたり、その他の者は嘲笑と鞭と、また繯綫と牢獄との試鍊を受け、或者は石にて撃たれ、試みられ、鐵鋸にて挽かれ、劍にて殺され……乏しくなり、惱まされ、苦しめられ』(ヘレヤ書十一章)、何の現世的報酬を得ることなくとも進んで神の聖意に絶對に服従し、その榮光の具とせらるゝことを喜こんだのであります。

## ク ロ ム ウ エ ル 及 び

## バ ン ヤ ン の 回 心 の 經 験

## ク ロ ム ウ エ ル の 精 神

ク ロ ム ウ エ ル は 英 國 が 未 だ 嘗 て 經 験 し た 事 の な  
い 大 渦 亂 中 に 在 り、東 奔 西 走、國 事 に 盡 瘁 し ま し  
た 時 繰 返 し 繰 返 し 云 つ た こ と は、今 起 つ て 居 る こ  
の 大 動 亂 は 神 が そ の 驚 く べ き 御 業 を 顯 は し 給 ふ た  
め の も の で あ り、神 の 正 義 は 遂 に 之 に 反 抗 す る 惡  
し き 者 を 挫 き、神 が 御 榮 を 揚 げ 給 ふ も の で あ る と  
云 ふ こ と で あ り ま し た。此 の 世 で の 顯 榮 の 位 置、  
此 の 世 の 仕 事 な ど は 何 等 求 む べ き も の で な く、そ  
れ は 彼 自 身 の 目 的 で な い、かゝ る 憐 れ な る 虫 け ら  
の 如 き 自 分 で も 神 に 召 さ れ、選 ば れ、神 の 御 意 を  
行 ふ た め に 存 在 す る 者 で あ る。さ れ ば 眞 實 佈 る べ  
き こ と は 神 に 對 す る 不 信、不 順 で あ る と 再 三 述 べ  
ま し た。彼 は 其 の 子 リ チ ャ ー ド に 書 を 送 つ て、

絶えず主とその御顔を探し求めよ。これを以て  
なんぢの生涯の仕事、又力とせよ。そして凡て  
のこゝをその次として之に服はしめよ。

と云ひ、長男の義父に

まことに我らの爲すところのことは我ら自身の  
頭腦よりは出す、又我らの勇氣と力とからも出  
ません。凡ては主より來ることが現はれるため、  
我らは我らに先立ち進み往き給ふ彼に従ひ、彼  
の撒き給ふものを集めるのであります。

これが家庭に於て、議會に於て、戰場に於て、或  
は子の結婚の場合に、或は反對黨と激論の場合に、  
或敵軍と決死の戦闘の場合に、更らに一國の權力  
を一身に掌握し、全英國の運命を己が双肩に荷つ  
て立つた場合に、其の他の如何なる時にも彼を導  
いた精神でありました。ダンバーの大戦も、議會  
の解散も彼にとつては、彼は只神の聖意に服した  
のみであつて、神自ら之を爲し給うたものであり

ました。此の強烈なる宗教的確信をこそ、彼は北米新英州への移住を思ひ止まつた頃獲得したものでありました。彼にとつて、又神を信する凡ての者にとつて、それは一生中の最大事件であります。私は今より如何にして彼が遂に此の確信を得るに至つたかを述べなければなりません。

クロムウエルが基督教を信じたのは三十歳以前のことでありました。そして前に述べましたやうに、彼は何人が見ても立派な熱心な基督者でありました。然し乍ら、彼自身長い間その心の最奥底に於て、自分は眞に神に知られ、光榮の器として選ばれ、神の聖意を行ふために召された者であるとの確信がありませんでした。それ故、彼は自分を基督者として人の前に發表し、他人にも亦眞正の基督者であると認められながら、心中言ひ知れぬ不安があり、光明を求めて暗黒の中を彷徨ひ、神よ、我を救ひ給へと生命のあらん限り叫び求め

ました。

當時の清教徒はカルヴェインの預定の教義を眞理として確信しました。然るに此の預定の教義は前申しますやうに、此程確固不動の信仰を人に與へるものはないと同様に、自分は確かに神に預じぬ光榮の器として定められ居る者であること云ふの確信を得るまでは、人々をしてこの位疑惑と恐怖、失望と落膽に陥らしめ、光明を求めて長く靈魂を暗中に彷徨せしめるものはありません。此の靈魂の經驗を最も鮮明に書き記したものはジョン・バンヤンの『罪人に恩恵溢る』と云ふ自叙傳であります。當時如何に眞摯なる清教徒が預定の教義のために悶え苦しみ、それがため寢食も廢するまで暗中に光明を求めて『あゝわれ惱める人なるかな、此の死の體より我を救はんものは誰ぞ』と叫んだかがよくわかります。私はクロムウエルの靈的經驗を述べる前に、もつと詳細に私共に知られて居



ますバンヤンの経験を語り、その上で同様の経験をクロムウエルも爲したことを述べましょう。

### バンヤンの宗教的経験

バンヤンは前記の自叙傳で、彼に始めて宗教心  
が起り、熱心に聖書を読み、眞面目な生活に入つ  
た當時のことを回顧して申しました。

私は言語と生活とに於て外部的改善を加へ、  
天國に行く道として私の前に誠命いままめを置いた。そ  
の誠命を守ろうと力めたのである。時としては  
かなり善く守つたと思つて安慰を感じ、又時と  
してはその一つを破つて私の良心を苦しめた。  
しかし、その時は悔いてそれを悲しみ、その次  
にはもつと立派に守ろうと神に誓つて、再び力  
を得た。其の間私の隣人は私を大層信仰の篤い  
人、新らしい信仰家と思ひ、私の生活行狀に於  
ける著しい大變革を見て大いに驚いた。それは

實際その通りであつた。(以上皆畔上譯による)

然るにかやうな自己満足は永續しませんでした。  
彼は自分には神に救はれた者の経験するやうな新  
生の経験がないことに気がつきました。自分の心  
の中に溢れるやうな歡喜がなく、神に對する感謝  
がなく、人を愛する眞の無私なる愛がないことを  
知るに至りました。大なる空虚！ それは此の世  
の如何なる善き物を以てしても盈し得ない空虚が  
自分の心の中にあることを感じました。それ故、  
彼は自分自身の救を疑ひ始めました。心の内に囁  
く聲がある。『お前は本當に救はれるやうに神に選  
ばれて居るのか』と。彼は返答に窮しました。彼  
は『これがために苦しんだ。私の心は主人のない  
地獄の犬の如く、私の魂は難破した船の如く、風  
のまにまに吹き去られ、時には失望のうちに打ち  
上げられた』。

『お、主よ、もし私が選ばれて居なかつたなら

ば、ごうしまししょう』と私は考へた。悪魔は言つた『多分お前は選ばれては居ない』と。私は考へた『本當にそうだろう』と。サタンは言つた。『それならば求道の努力は棄て、はごうだ』と。寔に汝が神に選ばれぬならば、汝の救を云するも何の効があるう。『それは欲する者にも由らず、走る者にも由らず、たゞ憐れみたまふ神に由るなり』ではないか。

『神は預じめ知りたまふ者を御子の像かたちに象あらわらせんと預じめ定め給へり。……又その預じめ定めたまへる者を召し、召したる者を義とし、義としたる者には光榮を得させ給ふ』ロマ八・二九 三〇』と聖書に在るのを見て、バンヤンは失望のうち、主よ、我を招き給へ、招き給へと絶叫しました。然し晴れ亘つた大空よりは何の返答もありません。反つて彼が神から益々遠かつて居るのを感じるばかりでした。自分の惡しき心と虚榮とが段々と明に見

えて来て、自己の真相の如何なる者であるかがわかり始めました。それは『自分の眼には蟾蜍ひきがへるよりも醜く、神の眼にもさつとさうであらうと思はれ』彼の『良心は傷だらけで、ちよつと觸つても痛んで』到底神の思恵を受くるに堪えずと決めて仕舞ひ、たしかに『私は神に棄てられ、悪魔に委ねられ、最早救は難かしくなつたと思ひ……こんな有様で長いこと——數年間も留まつた』と彼は告白して居ます。

彼はこんな罪のために苦しむ自分に比べ、何の苦しみをも有たない犬や馬の境遇を羨みました。それと同時にバンヤンはこの罪惡感の薄らぐことを怖れました。彼は或る時は天來の光明を得て心躍り喜に満ちましたが、それは四十日と續きませんでした。又或る時は神の存在を疑ひ、聖書は作り話だとして安心しやうとしましたがそれで安心出来るものではありませんでした。

此の頃ルーテルのガラテヤ書の講解を讀んで、キリストを愛するやうになりましたが、彼は人間の愛の如何に頼りなく、キリストを愛すと云ひ乍ら、僅かの快樂のために彼を忘れ去る自分を發見しました。『或は一飯のために長子の特權を賣りしエサウの如き<sup>みだり</sup>妄なるもの起らん。汝らの知るごとく、彼はそののち祝福を受けんと欲したれども棄てられ、涙を流して之を求めたれど回復の機を得ざりき』(ヘブル書二・一六及一七)。彼は自分の神に對する罪はこのエソウのそれであると思ひました。姦淫を犯したダビデ、偶像を祭つたソロモン、神に背いたマナセ、主を否んだペテロよりも惡しく、主を賣つたユダと同一であると思ふに至りました。實にバンヤンは今まで自分のうちに何か神に義とせられる善きものがあるだろうと之を探し求め、或は神に對する熱心、キリストに對する愛により神に義とせられやうとしたために心中何等の救の

確信なく、良心の満足を感じなかつたことにどうう氣がつけました。『義は天に在り』之彼が發見した大真理でありました。『我らの罪のために死にて葬られ、三日目に甦り給ひし』主イエス・キリスト、『彼れは神に立てられ、汝らの智慧と義と聖と救贖<sup>あがなひ</sup>とに爲り給へり』(コリント前一・三〇)と云ふことがわかつたのであります。キリストが一切のこゝを己に代つて爲して下さつた、彼が自分である、それ故自分は彼に従ひ彼と運命を共にするだけであると思ふことがはつきりわかつてバンヤンは眞に基督者とになりました。此の經驗は清教徒の代表的經驗でありまして、クロムウエルも亦之と同様の經驗をしたのであります。

### ク　ロ　ム　ウ　エ　ル　の　回　心

クロムウエルが二十九歳から三十七歳頃は最も自分の靈魂の救について苦しんだ時でありました。

彼の心の奥底の此の精神的煩悶に同情のないハンチングトンの醫師は彼を『怒りづばく、狂地味て居る』と評しました。ロンドンのある名醫は『激烈な神経衰弱』と診断しました。然し如何なる名醫も彼の『神経衰弱』だけは癒すことは出来ませんでした。若し彼がドイツで中世カトリックの空氣中に生れたならば、此の苦惱に堪え、ルーテルのやうに修道院に入つたかも知れません。然しクロムウエルの生れた當時の英國はカトリックではありませんでした。

彼は農事にいそしみつゝ、又郷黨の人々殊にその下層の者の味方となつてそのために盡し、又熱心に清教徒主義の福音の講演の援助をなしつゝ、己自身神の確實なる救の光明を求めて、無限の暗黒の中をさまよひました。そして遂に大なる救の確信に達することを得ました。ワーキックはその當時の彼を回憶して次の事を記き残して居ます。

此の偉大な人は甚だ沈鬱、苦惱の状態から起ち上つた。彼の偉大なる靈魂は悶え苦しみ、長い間、辛き恐怖と誘惑との下に在つて、側から見ても見窄らしい有様であつた。此の苦難の學校内に彼は閉籠められて、遂に十字架の教を學び、彼の意志は摧けて全く神の御意に服従するに至つた。

クロムウエルもバンヤンと同じく、遂にキリストが我らの罪を贖罪あがなふために苦難の死を遂げ給うたことを信することによつて神の眞の救を確信するに至つたのであります。我らの神に對する一切の罪、我らがそれを悉く知ると知らざるに拘はらず（誰も悉くは知り得ない）その悉くを贖罪あがなふために、主イエス・キリストが我らに代つて十字架に死し給ふて、最早神に對する我らの罪の責任は果され我らの罪は赦されたのであります。そして我らの靈魂の最深部に於て此の贖罪を完成し給

ふキリストが甦り給ふて彼のうちに生くる我らに永遠の生命の希望が生じて來たのであります。我ら彼を信じ、彼のうちに生きて、神は我らを義とし、又聖め給ふのであります。それは自分の力によるのでなく、キリストが我らに代り、我らのために、我らの内に之を爲し給ふのであり我らは之を信じ受ければ足るのであります。

然かもキリストのうちに活かふことは即ち彼と共に十字架を負ふて神の聖意を全うすることであり、自己の意思は全くキリストの十字架の前に摧けて、神の御意みこころが我がうちに完成さるのであります。神の國と神の義はキリストにより、之を信する我らに成るのであります。一切の能力、智慧、悉く彼より來る。只彼に絶対に信頼し服従せば足る。この事がわかつて『神はその預じめ知り給ひし者を召し、召したる者を義とし、義としたる者に光榮を與へ給ふ』事がわかります。自分は

明かに救のうちに在る事を確信するに至ります。

あゝ、イエス・キリストが自分であると云ふ此の事が眞にわかつて人生の意義がわかつたのであります。長いこと暗中に光明を求めてさまよひ、救を求めて得なかつた者がこの神の絶大の賜物を得て、始めて眞に神がわかり、喜こんで之に信頼し、己が身も魂も妻も子も悉く獻げて之に仕へ奉らんとする感謝と歡喜の生涯に入ることが出来るのであります。クロムウエルは今や眞劍に『神とその民の利害のため又英國のために義務を果さうと勤』むるに至りました。

親愛なる從姉

イリー千六百三十八年十月十三日

(前略)神が私の靈魂のために成遂げ給ふた事は、はつきりと申し述べ、わが神を讚美することは、私にも自信があり、いつも自信があるだろうと思ひます。私は實にこのことを知りました。神は乾いた不毛の荒野に泉を湧かしめ下さると云

ふこを。御承知の如く、私はメセク、それは遅延の意だと申します、に住み、又ケダル、それは暗黒を意味します、に住みますが、それでも神は私を棄て給ひません。假令延引し給ふことはあろうとも、神はきつと私を神の幕屋、彼の安息の場所に携へ入れ給うでしょう。私の靈魂は初子の集會と偕に在り、私の肉體は(復活の)希望のうちに安全であります。それ故若し此の世で或は行爲により又は苦難により神を讚美し得ば、こんな嬉しいことはありません。

まことにどれ程憐れな者でも、私以上に神のために身を献げなければならぬ者はありますまい。私は澤山の給料の前拂を受けて居ます。そしてその極く僅かの働きしか出来ないと思はれます。神は私を御子のうちに受容れ給ひ、私を光のうちに歩ましめ給ひます。否、われらを光のうちに歩ましめ給ふのです、それは神は光

であり給ひますから。我らの汚穢、我らの暗黒を照したまふものは神であります。神は私から御顔を隠したまふとはどうしても言ふことが出来ません。神は私にその御光のうちに光を見せしめ給ひます。暗黒に差入る一筋の光明は、その中にいとも優れた人を活す御力があります。かくも暗き我が心を照し給ふ神の御名はほむべきかな。

あなたは私の過去の生涯のどんなものであつたかをよく御承知であります。あゝ、私は暗黒に住み、暗黒を愛し、光を憎みました。私は首、罪人の首でありました。それは偽ではあります。私は神を敬ふことを嫌つたのであります。それにも拘はらず、神は私を憐み給ひました。あゝ神の仁慈の豊かさよ。私のために神を讚美して下さい。私のために祈つて下さい、善きわざを創め給うた神は主イエス・キリストの日に

之を完くし給はんことを。(下略)

クロムウエルの反對黨、彼の誹謗者は、彼の青年時代は放埒であり、不良性を帯びて居たと云ふ證據に永い間此の書翰を使用しました。然しそれは勿論明白なる誹謗であります。『あなたは私の過去の生涯のどんなものであつたかをよく御承知であります。あゝ私は暗黒に住み、暗黒を愛し、光を憎みました。私は首、罪人の首でありました。それは偽ではありませぬ。私は神を敬ふことを嫌つたのであります』と叫んだクロムウエルの告白は前に掲げたジョン・バンヤンの告白と同じく、又『我はわが中、すなはち我が肉のうちに善の宿らぬを知る。善を欲すること我にあれど、之を行ふことなければなり、わが欲する所の善は之をなさず、反つて欲せぬ所の惡は之をなすなり。……噫われ惱める人なるかな、此の死の體より我を救はん者は誰ぞ』と叫びました萬世に亘り聖者とし

て仰がれる使徒パウロの告白と同じやうに、それは良心の敏感なる者が聖き神の御前に自責の念に打たれて發する人間の人間たる本性の聲であります。カーライルは、此の書翰を引用してクロムウエルの青年時代の不良性の證としました一傳記者を罵倒して申しました『あゝ、我が痴れたる尊師よ、君自身色慾食欲の外に道德生活をしたことはなかつたのか。君の靈魂は覆ひ隠されて全く目に見えなくなつた清らかな高い場所に憧憬がれたことなく、水なき燥ける地の鹿のやうに之を慕つた事は一度もなかつたのか。永遠の北極星が黒雲に覆はれて消え失せた事は、君にはちつとも悲しくはなかつた。君に悲しい事が唯一つあつた。それはある位置に缺員が出来た時に何某の位高き後援者が君を忘れて仕舞つて居た事がそれであつた』。人間のうちには胃の腑以外に尊き靈魂のあること、その靈魂は神を慕ひ、永生を求め、罪より解

放を求めて呻吟し、一度神の救の經驗を得て確固不動の信仰の上に立つた時は、最早神以外天下に何の恐るゝところなく、神の聖意を行はんとして全世界を敵とすることを辭しなくなること知らない者にはクロムウエルの此の書翰は一つのたわ言に過ぎません。然し彼には本眞劍でありました。『私は澤山の給料の前拂を受けて居ます、そしてその極く僅かの働しか出来まいと思ひます』。主イエス・キリストの十字架の苦難の故に功績なくして神に義とせられ、永生の希望を得た者には、神のため如何程働くともその前拂の給料の萬分の一にも値しないことを感ずるのであります。オリバー・クロムウエルは此の心で『一個の正直なる人として、神とその民の利害のため、又英國のため、義務を果さうと努めた』のであります。彼の一生涯を解く鍵はこゝにあります。

### 同情は理解の本

人物を正しく理解し、又事物の真相を知るために是非なくしてならぬものは同情である。同情なくしては人物の心の奥底、事物の核心に透徹して之を理解する事は出来ない。而して世の多くの悲劇は誤解から来る。それは無智のためであるが無智は同情がないからである。西園寺公が世の中には善人と悪人の區別はない惻巧か馬鹿かであると云はれたと傳へられるがそれは正しい見方でない。

世間の批評を読むに其の大多數は冷靜でなく何かの感情に支配されて居る。悪評は悪感情から出て、同情の缺乏は必らず事物の誤解を來して居る。彼等の多くは誤解し乍ら得意で居る。そして自他を害しつゝある。

正しき知識を得るのに何よりも大切なのは同情である。其の人の立場に己が身を置いて考へることである。我等基督者に患難の多いのは之によつてキリストの苦難と同胞の困窮とに同情せしめ、より以上に深く神を知らしめ給はんとする神の恵深き教育である。(主筆)



## 軌近考古學と舊約聖書 (二)

ノア洪水期後のスメル文化に就て

小 栗 襄 三

大英博物館及北米ペンシルバニヤ大學博物館協力發掘隊のウル發掘に據るノア洪水地層の發見は前稿の如し。此地層内にウル先史王朝墳墓は發掘され洪水以後の文化の如何に高位に存せしかを示し到底現在史學の夢想だに許さざる燦然たる人類最古の文化社會を顯はし昨日迄信せられし埃及初期の文化を一蹴し我等の古代文化概念を一變したのである。アブラハム以前の舊約神話は今や神話に非ずして史的過去の事實となりつゝある。此事實は唯に基督信徒の興味に止まらず、史學專攻者に又考古學者に興味がある。乍併ら當文化の考證は當時代(紀元前約三千五百年より二百年に至る)既に象狀文字に類似する楔狀文字の存せしに關ら

ず文献を缺くも出土美術工藝遺物により其文化階梯を想像し得るに充分な材料を供給したのである。

ウル市發掘第五、六、七期の三ヶ年に渡る先史王朝墳墓の發掘は王室、民間墳墓を得たるも當時を考證する代表的遺物は此れを前者に求めねばならない。今特に代表的墳墓を擧げ其出土品を見ん。

一、メシカラムドウク墳墓(Mes-kalam-dug)『善き地の勇者』の意なり。王か王子なるか不明なるも王子と思はるゝ點多し。スメル年代記者は當名を記載せざるも棺槨内記名金屬製容器面上にあり。墳墓は地下六・七五米にあり棺槨は木製にして内部は赤褐色に塗らる。使用木材は壞ちたるも其原型は認められ玄室内に副葬品散亂す、出土品中最も重要なものに金製王冠あり、全冠十八金板より製作せられ假髮狀をなし側面は渦卷紋模様、上部は波狀模様の曲線より成り、後頭部に頭髮を鬘型に入るゝ所あり。其模様の線美は原始的曲線を脱

し好く調和の美を保ちて當時代を代表する金屬工  
藝品として貴重材料なるのみならず工藝技術及び  
當民族の藝術觀念を視ふに充分なるものである。

(イラツク博物館所藏) 其他金製燭臺、金製卵型  
容器、銀製帶皮、短劍等の出土を見ると孰れも現  
在シリヤ産出金屬製器に劣らず。

二、アバルギ王墳墓 (Abar-Gi) 地下八・三十米  
に在り墳墓は縦拾米幅五米の矩形をなし西北側に  
羨道を有す。墓室内に五十九個の骨骸を残す。女  
子頭蓋骨附近に裝身具あり男子頭蓋骨側に各々短  
劍を發見す、又羨口近くに二輛の軍車あり各々三  
頭の牛に牽かる。柳室内には少なくとも三個の死  
體ありし如し、不幸にして常習的掠奪發掘者の災  
に會ひ遺物及副葬品僅少ななるも遺物品中に二個の  
模型船を發見す、一は銅製にして酸化甚しく原型  
を辛じて認め得るに過ぎざるも、他の銀製模型船は  
完全に保存せらるる其型はイラツク國南部地方在住

のマツシ族アラビヤ人間に現在使用せらるる、船型  
に類似し細長き船體の兩端は隆起し、五人の漕者  
席は設られ中央部に輪狀日覆あり南部支那に見る  
小船の如し。此の船型はノア洪水以後のもの故、  
我々の頭腦をして直ぐにノアの箱船を想起せしめ  
る。勿論同一型態に非ざるは疑問の餘地無しと云  
へ雖、少なくとも此の銀製模型船を目前に見る時、  
必然的に船體の概念に走るを禁じ得ない。

其他豎琴の共鳴箱の貝殻嵌込飾板はスメル神話  
を書き、前額部の裝飾用金製牛頭の如きは其描寫  
に於て眞に迫るものあり、製作藝術家の心境を視  
ふに貧ならざるものがある。又同墳墓内多數の犧  
牲死體は王の從者が殉死せしが如し。此點に於て  
は我國原始時代野見宿禰の建議に起因する埴輪土  
偶は技術的に劣るも情操方面及人道的見地に豊か  
なるを知る。然し此等殉死死體供養に使用せられ  
しと覺しき牡羊神像が發見せらる。その型はアブ

ラハムが神に献げし牡羊を想起するに足るものなり（參照、創世記二十二章十二節）。

三、シユバツド女王墳墓 (Shubad) アバルギ王の後室か否か不明なるも斯く信せらるゝ節多し。地下七米に在り、棺槨内より石製圓壘形印玉の發見より女王名を得たり。墳墓内は掠奪的發掘者の難を免れ材料豊富なり。特に注目さるゝ遺物は女王の裝飾身具にして盛装にて埋葬せられしが如く、後頭部に七本よりなる南歐西班牙風飾櫛あり各先端に金製の花瓣開き、核心は青紺石にて作らるる其他金環、耳輪等純金製にして裝身の美を凝す。頸輪の如きは金、青紺石、肉紅玉髓石等より作られ、其細工精巧を極め埃及初期の作品を凌駕す。又墳墓西南端より堅琴が發見せられ、其側に横はる彈奏者の腕は琴に掛け演奏中に息絶せし態を示す。堅琴は現在のハーブ型を異にし下部に箱型の共鳴器を有す。其他金、銀、銅、石製容器、寶飾品、

珠玉、護符等數多出土し墓室内のみにて記録せらるゝもの百七十點、櫛室内を總計するならば有に三百點に達す。此等出土品を瞥見するのみにて當時女王の生活の如何に豪華なりしかを想像するに餘りあり（裝身具は北米費府にあり、堅琴及椅子等は大英博物館所藏）。

以上はウル先史王朝墳墓期の出土品の列擧である。乍併ら洪水以後の文化を知るに充分なる材料であること云はねばならない。其使用武器より軍事組織方面を知り、樂器の發達より情操方面を知り、使用容器より社會生活を知り、墳墓より建築術を知るならば何人ぞ云へ雖、洪水直後の文化に驚嘆を禁じ得ない。樂園を追はれし人類はメソポタミヤ平原に來り額に汗して原始社會を作り洪水に一扫せられ數世期後に此の文化を作つたのである。スメル文化は此後ウル第三王朝即ちアブラハム時代 に於て最高潮に達する。

## 無 産 者 イ エ ス

藤 本 武 平 二

『子たちよ、神の國に入るは、如何に難いかな、富める者の神の國に入るよりは、駱駝の針の孔を通るかた、反つて易し』(馬可十章廿四)

○或る日イエスは多くの人々を教へて後、途に出で給うた、その時或る一人の大なる資産を持つ篤信の若者走り來つて、イエスの前に跪ぎ問ふて曰ふた『善き師よ、永遠の生命を嗣ぐためには、我なにを爲すべきか』と。イエスは簡単に答へ給うた、『誠命を守れ』と。若者いふ『師よ、われ幼き時より皆これを守れり』と。この時イエス彼に目をさめ愛しみて言ひ給うた『汝尙ほ一つを缺く、往きて汝の有てる物を、こゝこゝく賣りて貧しき者に施せ、さらば財寶を天に得ん。且つきたりて我に従へ』と。誠命を能く守りし若者も之を聞き

て憂を催し、悲しみつゝイエスの前を去つたこの事である。

○イエスは富める若者に對して、その者の魂を愛するの餘り、明白に宣言し給うた。所有する財産全部を賣却して貧者に施し、然る後來りて我に従へと。イエスは今日の有産者に對しても同じ宣言を發し給うであらう、全財産を賣却し丸裸となつて我に従へと。然るに今日キリストに従ふ基督信徒の中には多數の富者がある、百萬長者と稱せらるゝ者もある。これ等の人々はイエスのこの言葉を聞いて何と答へるであらう。やがてキリストの御前に出でた時に何と辯解するであらう。財産を賣る所か、反つて増殖したではないか、かくして大富豪となりし人々は果して永遠の生命を嗣ぐ資格があるであらうか。勤儉貯蓄の尙ばるゝこの世と基督教とは全く相容れないのではなからうか。

○イエスは財産を持ち給はなかつた、全くの無産

者であり給うた。而して弟子に所有財産全部の放棄を命じ給うた。然らば今日の富者は之に従ひ悉くの財産を賣却しなければ救はれないのであらうか。是れ蓋し今日の大問題たるを失はない。財産を保持すべきか或は賣却して無産者となるべきか。聞け、今し彼の處に大衆の叫び聲が擧がるではないか、『資本家を葬れ、搾取者を仆せ、有産者と鬭争せよ』と。この聲に屈して有産者は無産者となり、而して後初めてイエスに従ふ時、人は救はれるのであらうか。

○多くの場合、貧は懶惰の結果である。勤勉と勞働により人は貧しからんと欲するも能はない。然し乍ら勤勞の結果として生ずる富は地に蓄へし財寶にして、人の望みを地に繋ぐの危険がある。故に人は故意に富を貧者に分かちても富者とならざることが眞の自由を保持する道である。

○然し富むと貧しきと、何づれであらうとそれ

は救ひの根本問題に觸れてゐない、富むも可なり、貧しきも可なりである。この世の財寶を持つと雖も、その財寶に對し何の執着を有せざる人は是れ財寶を所有し乍ら貧しき人である。よしこの世の財寶を持たず、多くの負債を有する人と雖も、若し財寶にのみ心奪はれ日夜そのために焦慮しつゝあるならば是れ借金を持ち乍ら富める人である。かのイエスの許に來りし篤信の若者は大なる資産を持ち且つそれに對し強き愛着心を持つて居た富める人なのである。故にイエスはその愛着心を捨てませんが爲めに、持ち物を悉く賣りて我に従へと仰せられたのである。此の世の財寶を持つも持たざるも、それは形式だけの事で根本問題には關係がない、要は心の問題である。故に資産家たる事必ずしも基督信者たるの妨げにならない、又無産者たること必ずしも基督信者たるの助けにならない。

○財寶を所有するといふ、果して人は財寶を自己の専有物として所有し得るものであらうか。或は富者といひ、或は貧者といふが果してそんなものが世に存在し得るであらうか。是れこそ私有財産制度に就いて彼是論せらるゝ現代に於て眞劍に検討さるべき問題ではなからうか。

元來宇宙も地球も人の身體も凡べて是れ神の屬ではないか、萬物悉く是れ神の屬であつて、人が所有するとか稱するも永遠の神の目には唯一瞬時人が神より托されたといふに過ぎないではないか。

共産とか稱し財産を均等に分配し或は共同の所有となさんとする説があるも、是れ萬物が神の屬たることを忘却した異説であつて、根本に於て誤まつてゐる。然し吾々は萬物が單に物質に過ぎないからとて之を卑下する事をしない、小なるものに忠なる者は大なる事にも忠なりこの御言葉に教へられて、財寶を神の屬として尊重し御榮のために

用ゆるであらう。

○我等は管に財寶を神の屬として神に献ぐるのみならず、父母兄弟に至るまで悉くを献げて完全なる無産者となるであらう。イエスの御言葉に『まことに汝らに告ぐ、我がため、福音のために、或は家、或は兄弟、或は姉妹、或は父、或は母、或は子、或は田畑をすつる者は、誰にても今、今の時に百倍を受けぬはなし。即ち家・兄弟・姉妹・母・子・田畑を迫害と共に受け、又後の世にては、永遠の生命を受けぬはなし』と。富も財も兩親も兄弟も悉くを神に献げるのである。自らの専有物と思はないのである。然り自分自身をも神に献げるのである。『無産者』となるだけではない全くの『無』となるのである。かくしてこそ人は眞に地を繼ぎ萬物を神より受くる事ができるのである。今日の思想問題の如きは疾くに解決されて最早や問題ではないのである。

二五と行り  
二五の行り

神に  
問題

# 柏 木 通 信 (第八信)

齋 藤 宗 次 郎

◎曝書の筈を覗く 梅雨晴れの一日、内村家蔵書の一部  
 其他の曝書があつた。數多き書籍、書畫、寫眞等を前にし  
 て興趣湧くといふよりも、寧ろ畏敬の念禁じ難きものがあ  
 つた。ダンテ、ミルトン、ルーテル、カルビン、ナルゾオ  
 ス、カーライル、カント、ヘーゲル、ゴッデー、法然を始  
 め、古今東西に亘る宗教、哲學、政治、文學、歴史、地理、  
 音樂、美術、科學等の世界の大家が、曾て恩師に受けし篤  
 き知遇に謝意を懷き、今茲に夫人の温かき手に蠹魚の厄よ  
 り免る。恩師は六歳、高崎城下士族屋敷の一隅より、四書  
 の素讀に可憐の聲を響かし、幽玄なる學問の途に發足せら  
 れて以來、自ら味讀送迎の禮を執られし内外の古書新本は、  
 其總數蓋し山なすものであらう。時に異論を闘はし反對を  
 高調する刺客の如き書に對しても、専ら敬意を以て優遇せ  
 られし態度は讀書子の大に學ぶべきことである。此等一々  
 の書に向つて如何に忠實なる眼光を放たれしかを知らんと  
 思へば、試みに其一冊を取つて精細に檢するがよい。表紙  
 といはず、扉といはず、序文といはず、悉く讀み碎かれて、

朱線は引かれ、評言は加へられ、感想までが與へられてあ  
 るのである。予は此美はしき誠意に接して只々恥ぢ入るの  
 みであつた。主人の爲に夫々何物かを貢ぎし許多の書冊を  
 閱する間から強く予の眼を牽きしは、淺間高原の秋草の葉。  
 シオン山上の梅鉢草、ベツレヘム郊外の齒朶、シヤロンの  
 百合花、ヨルダン河邊の水草等の押花であつた。曾て矢内  
 原氏、曉烏氏の心を籠めし贈物であらう。艷麗の唇もて輝  
 く歴史を雄辯に物語つて居る。予は囊中の寫眞を觀た。恩  
 師の義に燃ゆる半身、愛の零る、果樹下の姿、田舎傳道師  
 の装ひ、父子孫三代の嚴格なる相貌、山道の逍遙、豊平河  
 畔の散策、登別大地獄を覗かる、光景、講談會員に圍まる  
 、偉容、其他愛嬢路得子さんの葬儀の行列、理想の友人と  
 認められしハリス夫人の横顔なき、思ひを凝して眺むれば  
 容易に手放し得ざるものがあつた。更に文晁筆蝶の圖、百  
 鍊及び王丘の觀音像、岸駒の鶴、玉泉の月、鐵齋翁の遺墨  
 集、敬宇先生の『人不惟以餅生』の行書等、何れも味ふに  
 足るの作品。然れど此等にも優りて珍らしきは恩師の眞筆  
 『親切第一』『創世記第一章』『不欺不偽』『勤勉禁酒』なき、  
 題する大文字であつた。恩師の書は所謂書道の筆法を以て  
 評することは出来ないが、天眞穉氣其の人格を最も善く表

示する點より見て、天下一品と稱すべきものであらう。寔に古今獨歩の觀がある。先生未だ札幌農學校の學徒たりし時の英文のノートも出て來た。厲肅精緻なる書體を以て幾百頁を一貫し、終始一字の略筆なきを見て不知不識襟を正うするに至つた。噫々生れながらにしてカルバリー山上の十字架を證明すべく準備されし至誠の人よと獨語した。最後に予は『過去帖』なる内村家の系圖を示され且つ累代の人物を説明せらるゝのを聽いて武士魂の恩師に傳はる奇しき徑路に驚嘆した。渠に關する深遠なる攝理の聖旨を探查するならば、何が出て來るか豫測し難い。後人よ斧鉞を研いて神の森に入れよと是れ予の切なる願ひである。

◎柏木日曜學校 大正十年春、内村先生の滿六十歳の誕生日を記念して創設せられたものである。日曜學校の名稱の始まり其組織の歴史に就ては知らないが、敬神の人あり家庭あり其處に子弟あれば、自然に其必要が起り其實が現はるゝこと、なるのである。我が柏木に於ては恩師の深き同情と藤本氏の不斷の後援と、最初の主任牧野氏を始め石原、福田、岸等の適任者たる先生を得て繼續し來り、目下鈴木、齋藤、高橋の三氏の下に五十餘名の愛する生徒達は、毎日曜日朝各自キリストの救拯を賜はる靈性の準備と、教

育學上の原則を應用せる聖書知識の教養に預りつゝ、あるは極めて喜ばしきことである。恩師が常に『幼少年の宗教々育は最も大切だ、日曜學校だけは長く續けよ』と申されし此拿き事業の上に神の祝福の絶えざらんことを祈らなければならぬ。

◎洗足會例会 六月の會合を其十八日夕、青山なる田村氏宅に開いた。幾年續いても幾回開かれても我等は一向倦怠を覺えない。其日の來るのを待ち焦れて引き付けらるゝ様に集るのである。別に名論卓説が聞かれる譯でもなく、珍珠嘉肴の味は、ゝゝのでもない。相見ただけで宜しい。然も共に主を頌へ共に祈り互に平易の實驗談を交換するならば尙更有りがたく嬉しく樂しきことである。午後六時半、當家夫人の手製に成る鮎とお萩餅とを頂いて後、急用の爲め止むなく他に赴かれし當主田村氏に代つて寶田氏司會、讚美歌二四三、賽二十四章朗讀、祈禱について、日本國は名のみ佛敎國と云へぎ、實は無宗教無精神の狀態に陥つて居た爲め、其空虚を狙つて過激思想が巧みに侵入するこゝま、なつた。我等は生命の福音を傳へんことを冀ふ。山樞氏、目下我家に働く工人を見るに一意主人の命に應じて著しく能率を上げつゝ、あり。我等洗足會員もキリストの命に絶對



に服従して其御用に立たねばならぬ。藤澤氏、祈禱。永井氏、死の準備を怠るべからざること。名古屋氏、現代は知識第一を標榜して萬事に對す。我等は主にありて信仰第一の生涯を送らん。藤本氏、神は人間に平和の家庭を興へて天國の型を示さる。家族は各自勝手に權利を主張することなく神様に向つて『天の父よ』と眞實に呼び得るに至れば一切の問題は解決す。望月氏、世に義人一人もなければ皆神を求むる心を興へらる。人々は之を尊重し伸長せねばならぬ。石河氏、渡佛に就ての感想。渡邊氏、官命に依つて七八兩月を歐洲諸國に於て食糧問題調査の爲めに費すこと、なるの報告。小坂氏、主と二人にて歩む自分は近頃に至り祈りの恩師も偕に在りて三人なるの感あり。日吉、藤本氏、石河兄の渡佛の爲めに同情の祈に出づるは急務なり。最後に予の感謝の祈を以て閉會。

◎モアブ婦人會 六月十七日午後二時より淀橋淨水所公舎、寶田姉宅に開く、會する者十二名。聖書研究に福音の尊貴を感じ、輕き晚餐の間に互の胸襟を吐露して六時散會。七月の例會を其三日午後二時、恩師夫人の送別會を兼ね柏木今井館に於て開く、出席者十六名。使徒行傳六章の研究に際し、一の質問は議題となり、各自信仰の量を傾倒して

互に語り合ひ、遂に光を認め大なる聖靈の恵みに預り、それより只管長途の旅に上る恩師夫人と札幌の御家庭と留守邸との爲めに祈り、黄昏に至つて各々喜びを胸に滿たし歸途に就きし由。

◎日曜日の集會 我等信徒の心に盈つるは、罪を赦されし無限の恩恵と、復活のイエス今我と偕なり給ふの喜びと主の再臨榮光の日に宇宙萬物復興を見るの望みとである。斯くて日夜讚美し、感謝し、祈禱し、勞働し、戰闘し、涕涙し、流汗、飲食し、休眠す。一週は思はぬうちに過ぎて安息日は靜かに臨み來る。我等只光を慕ふて愛に驅られて兄弟姊妹相集る。信條も規約も儀式もない。然し何時もキリストの神聖なる祝宴に預つて歸る。願くは勝利の王をして一切に主ならしめよ。平和の里は此處に在り。

#### 國難來の眞因

山樞 儀市

#### 信仰と道徳

永井 久録

#### 以弗所書研究

小栗 襄三

#### 亡恩の歎

大島 正健

◎秋元梅吉氏の結婚 自らは夙に兩眼を奪はれて却つて光の世界を示されしを満足し感謝し、獨、日本國內十萬の盲人に止らず、支那、印度將た全世界の盲人の爲めに常に

同情の胸を絞り、日々心身を勞して點字書類刊行の業に従事しつゝ、ある教友秋元氏には、不圖誠實義俠理解に富める埼玉縣豊岡町なる伊藤いく子と婚約成り、六月廿二日午後四時半、東京市外高井戸なる盲人基督信仰會講堂に於て、畔上先生司式の下に嚴かなる結婚式を舉行した。教友親戚友人三十餘名出席、何れも衷心より此慶事を祝賀して神とキリストの榮光の崇めらるゝに至らんことを祈つた。

◎ 柏木教友會親睦會 其處には美味なる辨當に添へて澤山の菓子も果物もある。高さ笑聲もある。偶にはユーモアも交る。然し此等は何でもない。教友相互の心の中から其主たり全部たるキリストを發見してヨリ深く愛し合ひたいのである。我等は皆葡萄樹に連る枝である。完全に幹に纏つて共に善き實を結び、一致協力して葡萄樹の榮えを現はすのは本望である。管夫れ丈である。六月廿八日午前の禮拜後、出席者三十七名各自仕事を分擔して講堂の中央に方卓を据ゑ、椅子を並べ、花を飾つて急造の會場は出來上つた。正午辨當を前にして一同着席。青山士氏の感謝の祈を以て箸を執つた。歡喜の一時間は流れた。藤本氏司會、先づ會員一同の簡單なる自己紹介を以て、此一大家族の靈魂を繋ぐ眞の力を認めたる後、此記念日に於て過去一ヶ年を

回顧すれば、外部よりの誤解、杞憂、攻撃、誘惑が屢々押し寄せたが、此等は皆教友の愛と祈と忍耐によつて勝利に歸し、益々信仰の基礎を固むる好き經驗となつた。集會の方法も完全とは云へないが、常に聖靈の御助けによつて、幼稚ながら満足と希望に満さるゝは感謝の外はない。但し今後は如何なる道を進むべきかと自らの立場より謙遜に議案を提出せられたれば、一應各自の意見を述べたる上にて場所とか方法とか會計さかいふことは凡て問題ではない。其時々を示され導かるゝまゝに進むが善し。要は今朝小栗氏を以て説かれし以弗所書の精神の通り、我等は皆神の絶對愛、十字架の恩恵によつて死より解き放たれ自由とせられ、常にキリストに在りてのみ生ける者であることを體驗し確信し感謝し、眞の獨立的隨順的信仰に居るならば、換言すれば三位の神と我との間が義しき關係に在るならば、自然に禮拜の方法も湧き、信者の愛の一致も成り、他に對する純潔の態度も生るゝのである。一人残らず此根本精神に立つて居るかを反省せよとの警告が、天使の告知の如く力強く響いた時に會衆の全靈全身は螺旋狀星雲の如く一團となつて渦巻き、只ハレルヤ只アーメンとなつて神の聖座を高く仰いだ。大島老先生の感謝の祈を以て閉會。

## 編輯餘録 主筆

○本號柏木通信にもあるやうに柏木教友會設立當時は本山派御念佛派教會主義、内村先生を擔ぐ者等種々の惡評と中傷とが行はれたがそれらの讒侮は次第にやみ教友會は確實な地歩を以て發達しつゝあるのは嬉れしい。彼らに顯著な特色が二つある。その一つは恩師に對する純真なる感謝の念の盛んな事、第二は其重だつた人々に純福音的信仰が燃えて居る事である。此の二つは共に貴い。永くこれを維持されん事は私の切願である。

○内村先生逝去後の弟子たちの去就はかなり興味が多い。今後彼等が再び一つに團結するか各自獨立を維持し割據するかは純福音に據るかよらぬかに由つて定まらぬと思ふ。内村先生の説かれた所に顯著なるもの二つある。第一は純福音であり第二は無教會である。其のうち純福音が何よりも尊重されたならば一致がある。それ以上に無教會が高唱されたならば獨立割據がある。内村先生逝去後の二大潮流は純福音主義對無教會主義である。ヘーゲルの死後左派と右派とに分れたやうに今後此の二主義に分れはしないかを恐れる。

○社會主義を奉ずる文士仲間でロシアに眞似て宗教打倒運動を起して居る者がある。彼等はマルクスの宗教は阿片なりとの言を金科玉條とし、宗教は未來の幸福を約束して民衆を欺瞞し現世的社會の諸弊害除去社會制度改革の熱心を弱めるものであると云ふ。

○往時宗教が大に流行し教會堂や寺院の建立が盛であつたのは一つは世が戰亂の巷となり生活は常に不安であつたから人々は皆現世以上の幸福を未來に求めたのであるが、他の重要な原因は當時社會の平安と幸福とを維持し民衆を教化し文北を發達せしめたものは國家でなくして寺院教會であつたからである。民衆は必少必多現世生活に於ける宗教の有り難さを感じたのである。

○然るに今では國家が社會の安寧秩序を維持し又科學が進歩し産業が發達し來世を俟たずして現世で充分幸福を享受し得られるやうに思へて來て、死後地獄の火を怖れ天國の清福を求めるのは迷信とされ、地獄とは生活難、天國とは社會の進歩發展による黄金時代の出現を云ふに至つた。斯して人々は社會進化と科學とに依頼し宗教は民衆の支持を失ふに至つた。これが現代宗教衰頹の最大原因である。○然し乍ら宗教なき社會に眞の幸福があるであらうか。現世的幸福を最も多く享樂し得る者は金持であるが、果して彼等は外から見

様に美しい境遇に居るであらうか。私は最近しきりに彼等の生活の空虚を見せつけられて居る。彼等の多くは利己的であつて眞に愛する者をもたない。それ故眞に愛してくる友もない。多數の家人と召使とに圍まれ乍らその生活は孤獨暗黒である。そこに何の人生の滋味があらう。心の生活は砂漠のそれである。

○私は彼等の立場に身を置いて見て憎むよりも審る同情する。彼らに金さへなくばもつと人間らしい生活が出来るだらうと嘆ずる。最近こんな手紙を受取つてそれを再び感じた。

私は貴下と考方は随分異なつて居りますが書中(聖書の經濟觀)に漲る何等か高貴な精神は面白く感じます。小生の如き大俗物にもやはり高貴なものに對する人間共通の懐れがあると思えます。私は近頃大に俗化した心算ですが、そして貴下と意見が非常に異なつて居ますがやはり貴下を何となく親しく思はれます。そして俗物であり乍ら眞に俗物に親しめません。これが小生の煩惱であります。今少し俗化に徹底しなればならないとも思つて居ます。

無宗教の現代文化の行先は此の手續が明示して居る。近來顯著なのは至るところ家庭が砂漠化し精神的清福の家庭は殆ど見られないことである。不安憂愁不満爭鬭、これ現世主義の破綻である。社會主義者が現世主義を翳さして宗教を打倒しやうとして居るが其の足許から崩壊しつゝある。

江原萬里著

# 聖書の現代經濟觀

總布製二八〇頁 定價二二〇 送料八

購讀者より之を讀んで不思議な力を感じたと書き送らるゝ者多し。今其の一つを摘記すれば

(前略)時あたかも聖書の現代經濟觀の廣告がありました。早速送つて貰つてむさぼる様に讀みました。「失業者への慰」の欄に及びました。「己が御子をも惜しまずして我等に賜ひたる憐憫の極みなる神があなたの父であり玉ふならばどうしてあなたを捨子にして養ひ玉はないことがあるでしょうか、あなた一人位養ふ能力が神にないと思ふのですか、御信じなさい」を讀み終らないうちに神のダイナモより幾百ホルトか嘗て此世にない程の高壓の電氣が私を悉く焼き盡し黒こげにしました。……其の時私には未だ嘗て經驗しなかつた基督よりの平安が宿りました。(下略)

## 内容抄録

地を嗣ぐ者は誰ぞ。故郷歸還。運命が攝理

か。ガリラヤの春。士族の商法。胃の膈膈學。鈴木馬左也翁。ガリソン。基督者とは何者か。後篇 富の増進。

著者署名定數三百部に今少し餘裕があります但し聖書の眞理社に直接申込まれ且つ署名希望明記に限る。

黒崎幸吉著

## カルヴェインの教會觀

定價三五 送料四

金澤常雄譯 ロバートソン著

## キリストの孤獨

定價二〇 送料二

原田美實譯 ゴデー著

## 四大預言者の研究

定價三〇 送料二

塚本虎二著

## 基督敎十講

定價七〇 送料六

吽上賢造著

## 初代の人々

定價五〇 送料四

以上一粒社又は向山堂發行。獨立堂にて取扱。

# 聖書の眞理定價 (送料共)

一 部 二 十 錢  
半年(六部) 一圓十錢  
一年(十二部) 二圓十錢  
海外一年分 二圓六十錢

拂込は振替東京六三三七五番  
聖書の眞理社宛のこと

## 思想と生活 合本

第一卷 二 圓 送料八錢  
第二卷 一圓八十錢 送料六錢  
第三卷 二圓三十錢 送料八錢

昭和六年七月二十六日 印刷納本  
昭和六年八月一日發行

神奈川縣鎌倉町扇ヶ谷三四三

編輯印刷 兼發行人 江原萬里

發行所 東京市外濠谷町向山九七

發行所 聖書の眞理社

名古屋市中區流川町一八

印刷所 一粒社印刷所

東京市外柏木九四六

發賣所 獨立堂 書房  
振替東京一九四六八

(昭和三年二月十六日)  
(第三種郵便物認可)

聖書之眞理 第四十六號

昭和六年八月一日發行  
(毎月一圓一日發行)

本誌定價二十錢